

周 防 灘

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
山口県	<p>深浦管絃祭（下松市）</p> <p>深浦自治会・管絃祭実行委員会 深浦公民館 TEL：0833-52-0948</p> 	<p>毎年旧暦6月17日の夜に、安芸宮島の厳島神社と同じように、深浦の東と西より、大きな打瀬船一艘ずつに、たくさんの提燈をともし、月の上りと同時に船を出して、海の中の厳島明神様にお参りし、海の安全を祈願する。たくさんの提燈が夜の海を照らす光景は、とても幻想的。打瀬船から管絃の音も聴こえてくる。</p>
	<p>貴船神社の貴船祭(周南市)</p> <p>杵島公民館 TEL：0834-84-0312</p> <p>URL： http://www.mlit.go.jp/crd/chirit/image/100kei-sukumo.pd</p> 	<p>ふぐ延縄漁発祥の地・周南市杵島。「海を渡る神輿」として全国的に有名な貴船神社夏祭りは、約150年前に安全と大漁を祈願して行われたことを起源として伝えられている。毎年7月下旬に開催される。</p> <p>身を清めた若者が、みこしを担いで海に入り、貴船神社と御旅所までの約500メートルを渡る勇壮な海の祭である。貴船神社を出た金色の神輿は海に入り、白装束を着た若者に揉まれながらお旅所へと運ばれる。その光景をカメラに収めようと、多くの写真家も訪れます。海上安全を祈願して始められ、150年以上の歴史があるといわれている。平成21年（2009年）には「島の宝100景」に選ばれている。</p>
	<p>神舞（かんまい）（上関町祝島）</p> <p>上関町教育委員会 祝島区・祝島神舞奉賛会</p> <p>TEL：0820-62-0245 URL：www.iwaishima.jp/</p> 	<p>伝承によると今から千百十余年の昔、仁和2年（886年）8月、豊後伊美郷の人々が山城国石清水八幡宮より分霊を奉持して海路下向中、嵐に会い祝島三浦湾に漂着した。当時この地には三軒の民家があり、住民は厳しい自然環境の中、苦しい生活であったが一行を心からもてなした。その時に教わった荒神を祭り、農耕（麦作）を始めたことにより、以後島民の生活は大きく向上した。それからそのお礼にと、島民は毎年8月に伊美別宮社に「種戻し」に欠かさず参拝をした。そして4年に一度伊美別宮社から20余名の神職、里楽師を迎え、祝島を斎場に神恩感謝の合同祭事を行うようになり、今日にいたっている。</p> <p>この祭りは、山口県と大分県との海上49キロメートルを三隻の神船が往復し、百余隻に及ぶ大漁旗で飾った奉迎船や權伝馬船が織りなす勇壮な入船・出船の海上神事が行われ、新調の苫で覆われた仮神殿で、伝統にのっとり古式豊かに三十三種類の神楽舞が奉納される。</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
山口県	<p>御年祭（防府市）</p> <p>矢立神社</p> 	<p>山口県周南市北西部の和田三作地区で古くから伝承され、国の重要無形文化財に指定されている「三作神楽（みつくりかぐら）」が防府市野島（のしま）の矢立神社に奉納される。</p> <p>野島御年祭は、明治22年（1889年）頃から始まったとされており、悪疫退散などを祈り、4年に1度、2日間にわたって、入船神事、道中シャギリ、神殿清め舞、神迎えの神事、清めの舞などの神楽及び神送りの神事が行われる。最近では平成26年（2014年）10月25、26日に開催されている。</p> <p>神楽の一行は周南市から迎えの船で野島に向かい、港に到着すると船上で舞を演じる。</p>
	<p>丸尾十七夜管弦祭（宇部市）</p> <p>※宇部市無形民俗文化財</p> <p>丸尾十七夜管弦祭保存会</p> 	<p>丸尾十七夜管弦祭は、旧暦6月17日に行われてきた祭りで、満潮に近い頃に合わせて管弦船で丸尾港内を巡航するものである。管弦船は、全長約14mの「おかげん船（ぶね）」と呼ばれる漁船（「大漕ぎ」ともいう）で、約250の提灯（ちょうちん）を取り付けています。管弦船に横笛や太鼓を演奏する者が乗り、「しゃぎり」と呼ばれる管弦楽を演奏する。現在では、旧暦6月17日に近い土曜日に開催している。</p> <p>瀬戸内海の沿岸地域である宇部市東岐波丸尾の伝統行事である。</p>
福岡県	<p>苅田山笠（かんだやまかさ）</p> <p>※福岡県無形民族文化財</p> <p>苅田山笠保存振興会</p> <p>苅田町役場 TEL：093-434-1111</p> 	<p>苅田町北部の産土神（うぶすながみ）である宇原神社の神幸祭（じんこうさい）は室町時代に始まった。神様がお旅所に行幸される際に、御神輿の供として、各区（村）の氏子は笠鉾（かさほこ）や鉾山（ほこやま）を出した。これが発展して現在の山車（やま）となった。この山車は、岩山、提灯山、幟山と姿を変えて巡行する。山車は、村人が神を敬い、自然・環境の保全、暮らしの繁栄と感謝の気持ちを表している。この神幸祭と山車が巡行する一連の祭りを「苅田山笠」と総称し、570年の歴史と伝統ある祭りとなり、今日まで継承されている。祭りは町民の愛郷心や連帯感を育み「まちづくり」にも貢献している。神社近くの区は、幟山で海岸に汐汲みに行き山笠を清めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催場所：苅田町役場駐車場 （一連の行事は、宇原神社・苅田駅周辺・各区等にて行われる。） ・開催日時：10月の第1日曜日 （一連の行事は、毎年9月下旬から始まる。）

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
福岡県	<p>URL http://www.town.kanda.lg.jp/_3861/_3908/_3955.html</p> <p>放生会（ほうじょうえ）（福岡県築上郡吉富町） （仲秋祭・海上渡御祭、にな流し）</p> <p>八幡古表（はちまんこひょう）神社 福岡県築上郡吉富町小犬丸 353-1 TEL：0979-22-3237</p>  <p>【八幡古表神社 HP】 URL： http://kohyoujinjya.jimdo.com/ 【吉富町 HP】 URL： http://www.town.yoshitomi.lg.jp/</p>	<p>奈良時代に始まる宇佐放生会は、仏教の殺生を戒める教えにならって、供養のため捕らえた生き物を野に放してやる宇佐神宮寺の弥勒寺の重要な行事であるが、平安時代の古くから上毛郡と下毛郡の古表社が、宇佐の和間の浮殿の前の海上で、傀儡子舞を奉納していた。江戸時代になると、古表社は独自でこの祭を行なうようになった。以前は、8月15日の仲秋祭で4年に1度行なわれていたが、今は8月6・7日、乾衣祭（おいろかし）と一緒に行われている。山国川を海上一里（約4キロメートル）にかけて上下して、放生儀式と細男舞が執行され、蜷などの魚介類が放される。古表神社境内では細男舞・神相撲・神楽などが奉納される。</p>
	<p>蓑島百手祭（みのしまもてまつり） （行橋市）</p> <p>※行橋市指定無形民俗文化財</p> 	<p>蓑島百手祭とは、弓矢で的を射て吉凶を占い、繁栄を祈る神事である。江戸時代まで各地の神社で行なわれていたが、明治時代以降次第に減少した。そのなかで、蓑島百手祭は、室町時代からの伝統を今に伝え、毎年5月21日の夕刻、蓑島神社にて、法泉寺・西方寺・浄念寺とともに神仏一体となって執り行われている。</p> <p>中世の蓑島は海上交通の要衝であった。しかし、室町時代後半の戦国時代、瀬戸内海を横行していた水軍（海賊）が度々来襲して島の安全は脅かされていた。島民は弓術を修め、結束してこれに対抗したといわれている。この祭りは、戦乱の時代に島の平和を願って放たれた百手の矢に由来している。</p> <p>祭りは、まず籤幣によって射手（イボコモチ）となる2名の若者が選ばれる。次に、神社南西にある小祠の前に海賊の目に見立てた巨大なのが2張り用意され、射手は的に向かい矢を2本ずつ射る。命中するとその年は豊漁が約束されるという。続いて子供たちによりのが壊され、その破片は無病息災を願って家々に祀られる。また、長寿を迎えた夫婦がつくったケーラン団子も奉納される。この祭りは、古式な格調を残した貴重な民俗行事である。</p> <p>（福岡県 HP より引用）</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
福岡県	<p>宇島(うのしま)祇園(宇島神社春季神幸祭) (豊前市)</p> <p>※豊前市指定無形民俗文化財</p> <p>宇島祇園保存会</p> 	<p>文政8年(1825年)6月5日の夜、時の豊前小倉藩主小笠原忠固(ただたか)公が海路参勤交代の途中、宇島港築港工事の進捗状況を視察に訪れようとしたが、折からの時化で御座船は入港できず困りはてていた。これを知った地元の漁民たちは10艘の小船で沖に漕ぎ出し、無事御座船天祥丸を港へ曳航して、藩主の難を救った。</p> <p>さらに翌日には御座船を沖まで見送り、祝いの舟歌を連唱したところ、藩主は大いに喜んだという。</p> <p>これを記念して、翌文政9年(1826年)より6月6、7日の両日殿様祭りとして祇園祭を執り行うようになった。現在は、5月3・4・5日に開催されている。</p> <p>上記由来のとおり、海上で難儀をしていた藩主を地元漁民たちが救い出したことに始まる祭である。</p> <p>山車は、船車1・踊り車5・傘鉾1が町内を練る。これに神輿が加わる。この中で特徴的なのが船車天祥丸で、船を象った山車となっている。船車に御座船天祥丸の名前を載している点は藩主救出の勲章といえる。この祭の特徴の一つに、舟歌がある。3日間かけて町内各地の巡幸先56箇所舟歌を歌う。由来で述べたように、藩主を見送る際に祝いの舟歌で喜ばせたことに因んでいる。</p>
大分県	<p>ホーランエンヤ(豊後高田市)</p> <p>※大分県選択無形民俗文化財</p> <p>豊後高田市商工観光課 TEL : 0978-22-3100 E-mail : c-hatabe@city.bungotakada.oita.jp</p>  <p>URL : http://www.city.bungotakada.oita.jp/dekigoto/page_00381.htm</p>	<p>毎年、正月の大潮の時期に併せて行われる「ホーランエンヤ」県選択無形民俗文化財のこの祭りは、江戸時代中期に始まったといわれている。当時長崎県島原藩の属領であったため、年貢米を島原や大阪の蔵屋敷に船で送っていたが、その廻船の航海の安全と豊漁を祈願する行事で、新年を祝うたいへん勇壮な祭りとして、知られている。</p> <p>豊後高田市の中心を流れる桂川を舞台に、大漁旗や万国旗などで彩られた「宝来船」に締め込み姿の若者と囃し方、踊り子など関係者が船に乗り込み、下流の金比羅宮を参拝した後、“ホーランエンヤ、エンヤサノサッサ”と言う掛け声とともに、川をジグザグに漕ぎ上がり、上流の若宮八幡宮を目指す。</p> <p>川上りの途中船上では、エビス様、ダイコク様の2神に扮した少年が踊って祭りを盛り上げ、途中川岸の観客から祝儀やお供え物が差し出されると、漕ぎ手の若者が勢いよく厳寒の桂川に飛び込んで受け取りに行き、船が岸に近づくと見物客めがけて船上より紅白の縁起餅をまく。</p> <p>最後に漕ぎ手の若者はお供え物を持って、若宮八幡宮に参拝に行く。祭りの最後には、市役所前でたくさんの縁起餅が撒かれる。</p>
	<p>姫島盆踊り(大分県東国東郡姫島村)</p>	<p>姫島の盆踊りは、鎌倉時代の念仏踊りから発展したものとされており、毎年8月14,15日に、キツ</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
大分県	姫島村役場 〒872-1501 大分県東国東郡姫島村 1630 番地の 1 TEL 0978-87-2111 FAX 0978-87-3629  URL : http://www.himeshima.jp/kanko/festivals/karei/index.html	<p>ネ踊り、アヤ踊り、銭太鼓（ぜんだいこ）、猿丸太夫（さるまんだゆう）などの多くの伝統踊り、創作踊りが披露される。</p> <p>キツネ踊りは大人の踊りであったが、昭和20年代に大人から子どもの踊りとなり、北浦地区の子供たちによって踊られるようになった。可愛らしいキツネの化粧とユーモラスなしぐさで人気を集めている。</p> <p>アヤ踊りは北浦地区の青年男女によって踊られるもので、男女各々1名が一組となり、男子はアヤ棒といわれる青竹をもち、女子の間を縫うように激しく踊る。</p> <p>銭太鼓は松原地区の青年男女によって踊られるもので、男女各々1名が一組となり、男子は銭太鼓といわれるフグの皮を張った片面の太鼓をもち、女子の間を縫うように腰を落とし踊る。男子の重厚な踊りと女子の優雅な踊りと対照的なおどりである。</p> <p>猿丸太夫は、西浦地区の女性によって踊られるもので、姫島在来の踊りではなく何時の時代か村外より移入されたものといわれており、優雅な踊りである。</p>

響 灘

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
山口県	めかり神事（下関市） 住吉神社 TEL:083-256-2656 	<p>住吉大神が祀られた時、神功皇后が神職に銘じて壇ノ浦の和布（ワカメ）を刈り取らせ、神前にお供えした故事に始まる。</p> <p>旧暦の元旦未明、壇ノ浦海岸において和布を刈り採り、午前6時に神前に供えて祭典を行う。神社・海岸間を往復する奉仕者（神職）の松明行列や、実際に和布を刈る採る様子を見ることは、禁忌とされている。</p> <p>午前6時の祭典の後には、社頭にて参拝者に開運和布を授与され、それを食べることで1年間の無病息災を祈願する。</p>
	しめなわ祭（下関市・立石稲荷） 赤間神宮 TEL:083-231-4138 URL: http://www.oidemase.or.jp/tourism-information/spots/10457	<p>壇之浦海中の大石に神官がしめなわを張る神事である。</p> <p>昔、大雨、台風、火災、疫病と悪いことが続いたとき、神が倒れている大石を起こせば災害がなくなると告げられ、この大石を起こしたところ災害がなくなったという故事に由来している。関門海峡の冬の風物詩として有名である。</p> <p>祭日は、12月10日。まず赤間神宮でしめ縄のお払いが行われ、赤間神宮十人会・岸敬会の手により壇之浦漁港に運ばれる。山口県漁協壇之浦支店の奉仕船に乗り、立石稲荷のご神座・烏帽子岩（えぼし</p>